



# グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出することで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。

その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです！

小6の時に、中国への体験プログラムに参加し、旅行ではなく海外で学ぶ意義を感じました。現地の方々と実際に触れる前と後ではイメージがまったく変わり、報道や情報伝達のあり方に疑問や興味をもち始めたのです。それが広島創智学園への進学のきっかけになりました。中学時代はコロナ禍で渡航は断念。コロナ明けの高1の時、トピタ！に参加した先輩が校内説明会を開いてくれて「自分も行きたい！」と。ウクライナ侵攻が始まっていたので、興味をもっていた報道についての探究をしてみたくて、チエコに留学することになりました。

先生や親がトピタ！の志願書の添削をしてくれた経験をもとで、校内のトピタ！同期生たちと共に、翌年から後輩の書類添削や面接指導をするシステムを作りました。実際に海外に出ると、他国への偏見が消え視野が一気に広がります。特にトピタ！は事前事後学習のおかげで目的意識が明確になりました。

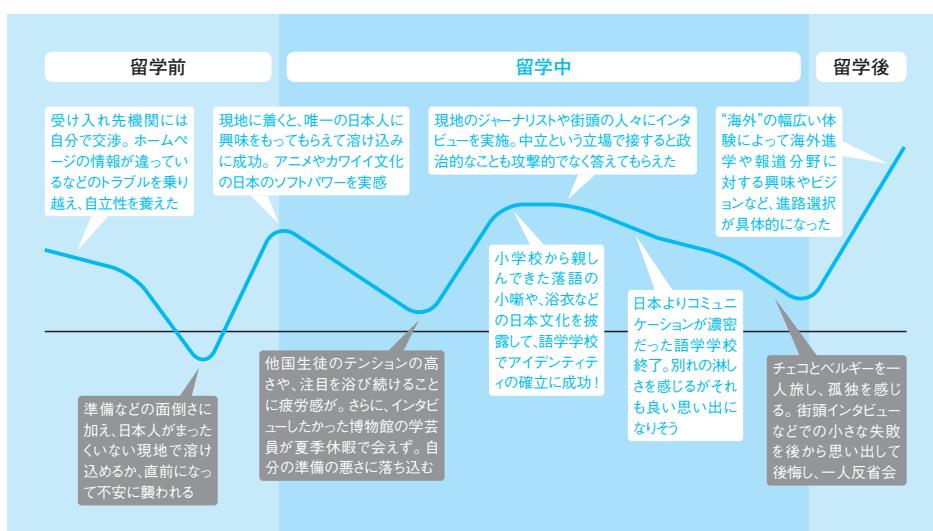
## 目的意識が高い留学を 後輩たちにも経験してほしい

File No.18



川端皓士朗さん(18歳)  
広島創智学園高校(広島・県立)

小学生の時に中国の姉妹都市との交流から、イメージと実際に触れた印象の違いに興味をもち、国際教育に力を入れる広島創智学園に進学。ジャーナリストを志望しつつトピタ！での留学体験から、情報伝達におけるバイアスにも関心が高まり、進学に向けて勉強中の高3。



### DATA

#### 【留学した年齢】

17歳

#### 【留学した国】

チエコ

#### 【留学期間】

高校2年の8月から15日間

#### 【留学内容】

チエコにおけるウクライナ報道について学ぶ

#### 【留学しようとおもったきっかけ】

小学生の頃から海外で学ぶ価値を感じ、奨学金で留学ができる「トピタ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」に応募。

\*「トピタ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トピタ！」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



プラハの国立博物館に掲げられたウクライナの国旗。他にも街のあちこちで見かけた。